

山 岳 遭 難 発 生 状 況

(令和8年1月1日～令和8年2月8日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和6年数値は1月1日からの同期間数値）

区 分	発生件数	死 者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令 和 7 年	21	5	1	6	13	25
令 和 6 年	13	2	0	6	10	18
前 年 同 期 比	8	3	1	0	3	7

2 山域別発生状況

区 分	件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北 ア	槍穂高	0	0.0%	0	0	0	0
	後立山	9	42.9%	3	1	2	6
	その他	0	0.0%	0	0	0	0
計		9	42.9%	3	1	2	6
中央アルプス		2	9.5%	0	0	0	1
南アルプス		0	0.0%	0	0	0	0
八ヶ岳連峰		4	19.0%	1	0	2	3
その他の山岳		6	28.6%	1	0	2	3
計		21		5	1	6	13

3 態様別発生状況

区 分	件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	5	23.8%	1	0	4	0	5
転 倒	1	4.8%	0	0	1	0	1
病 気	2	9.5%	2	0	0	0	2
道 迷 い	4	19.0%	0	0	0	6	6
落 石	0	0.0%	0	0	0	0	0
雪 崩	2	9.5%	1	1	0	0	2
落 雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	2	9.5%	0	0	0	2	2
不明・他	5	23.8%	1	0	1	5	7
計	21		5	1	6	13	25

4 男女別・年齢別比率

区 分	男 性					(人) 比率	女 性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	0	0	0	11 57.9%	0	0	0	0	0	3 50.0%	0	14 56.0%
20代	1	0	1	7	9		0	0	0	2	2		11	
30代	1	0	0	1	2		0	1	0	0	1		3	
40代	1	0	2	1	4	6 31.6%	0	0	0	0	0	1 16.7%	4	7 28.0%
50代	1	0	1	0	2	2 10.5%	0	0	1	0	1	2 33.3%	3	4 16.0%
60代	0	0	0	2	2		1	0	1	0	2		4	
70以上	0	0	0	0	0	10.5%	0	0	0	0	0	0	0	16.0%
計	4	0	4	11	19		1	1	2	2	6		25	
比 率	76.0%						24.0%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（2/2～2/8）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
2月2日	飯山市 豊田地籍の山中	男	46	無事救出	道迷い	単独でスキー場を滑走中、管理区域外に逸脱してしまい、道に迷い、行動不能
2月6日	白馬村 北城地籍の山中	男	22	負傷	滑落	3人パーティでバックカントリーを滑走中、バランスを崩し、滑落、負傷
2月8日	中央アルプス 将基頭山	男	55	対応中	道迷い	単独で将基頭山から下山中、吹雪により道に迷い、行動不能

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、3件の山岳遭難が発生し、うち2件はバックカントリー遭難でした。

バックカントリーは、スキー場の延長ではありません。スキー場管理区域（境界）から一歩踏み出せば、リスクを伴う冬山そのものです。雪質が魅力的に見えても、管理区域を一歩出た瞬間から、そこは自然の中に身を置くことになります。

「少しだけなら戻れるはず」という判断で、スキー場の境界ロープを越えていませんか？スキー場の境界線の先は、整備はされておらず、遭難してもすぐに救助が来るわけではありません。遭難事例の中には、雪崩対策装備はもちろん、ビバーク装備等を持たずに入山しているケースが見られます。

ゲレンデ感覚のまま、十分な準備をすることなく、管理区域外を滑走することは、重大な遭難に直結します。

まずは、スキー場のルールを理解し、マナーを守って行動しましょう。また、バックカントリーに入る場合は、天候・地形・ルートを事前に確認し、雪崩対策装備やビバーク装備を必ず携行した上で、安全を最優先とした行動をお願いします。